

情報ホットライン

INFORMATION HOT LINE

① TOPIC

地域包括ケアシステム構築に欠かせない存在 訪問看護ステーションとは

世界に例をみない「超少子高齢化」へ突入していく日本において、効率的かつ質の高い医療提供の持続は大きな国政課題。昨年6月には医療介護総合確保推進法が成立し、在宅医療・介護に重きを置く地域包括ケアシステムの構築を目指す国の方針が明示されました。その構築に欠かせない役割を担う機関のひとつが、各地に点在する訪問看護ステーション。長野県訪問看護ステーション連絡協議会によると、9月末現在で南信には、1996（平成8）年開設の伊南訪問看護ステーション（駒ヶ根市、伊南福祉会運営）など27の加盟ステーションが存在。また10月1日には、上伊那中核病院の伊那中央病院（伊那市、伊那中央行政組合運営）に新たに開設されました。

◆10年後の構築目指す
地域包括ケアシステム
厚生労働省のwebサイトだと、昭和20年



↑訪問看護による看護サービスの様子（10月13日、撮影協力/伊南訪問看護ステーション）

年齢（65歳以上）人口は27年後の2042年に約3900万人でピークを迎え、以後も75歳以上の人口は増加し続ける見通しです。そうした予想を背景に国は、効率的かつ質の高い医療を維持していくために▽住まい▽医療▽介護▽予防▽生活支援にかかわる支援・サービスを地域で包括的に提供できる体制（地域包括システム）の構築を、前述した2025年をめどに推進を図っています。

地域包括システムは言い換えれば、高齢者が住み慣れた地域で必要な医療・介護を受けながら、安心して自分らしい生活を送れるようにするための、関係機関などの密接な連携網。その機関のひとつに訪問看護ステーションがあります。

◆ターミナルケアやリハビリも

訪問看護は、病気や障がいを持って自宅などで療養している人（利用者）を看護師らが訪ね、看護サービスを行うこと。サービス内容は医師の指示に基づき医療処置や、病状の観察、医療機器の管理、身の回りの一部の世話など。ターミナルケア（終末期看護）やリハビリも含まれます。利用者は年齢を問わず、赤ちゃんからお年寄りまでが対象。看

護師らは看護サービスを通し、利用者の回復と自立に日々努めています。そのような一連の業務を請け負う事業所が訪問看護ステーション。訪問看護には介護保険、医療保険が使えます。

◆「少しでも関心を持っていただけたら」

伊南福祉会（中原正純理事長）が運営する伊南訪問看護ステーションは、伊南4市町村（駒ヶ根市、飯島町、宮田村、中川村）にある昭和伊南総合病院、前澤病院、開業医の各医師や、ケアマネージャーらと連携して業務を行っています。その利用者の中心は同じ4市町村に暮らしている高齢者層。今年9月1カ月間のまとめだと、その数は127人で、うち7人は0歳〜18歳でした。利用者それぞれ様子は▽家族に看られている▽高齢夫婦2人暮らし▽ひとり暮らし▽「いずれは施設入所」という人など、さまざまです。

対して、現在のスタッフは看護師や理学療法士、作業療法士ら医療スタッフは15人、ケアマネージャー専属スタッフ、事務スタッフが各2人です。看護師は、病院勤務を経て訪問看護歴10年以上となる経験豊富なベテランがそろ

います。「最後まで家で」と、住み慣れた住居での看取りへの希望にも対応しています。開所から20年目を迎えた伊南訪問看護ステーション。佐々木弘子所長は「今までは、家で暮らすのは無理と多くの方にみられていた方が、訪問看護を受けながら住み慣れた自宅で暮らし続けていた事例も。また、赤ちゃんの訪問看護では、かわいらしい表情に看護師やリハビリスタッフが発見にさせてもらっています」

そして、言葉を添えて「お元氣な皆さんの訪問看護への認知度は決して高くはありません。そうした方たちの多くに少しでも関心を持っていただき、自宅療養などで困っている身近な方に、訪問看護を紹介したりしていただけたら」と期待しています。

なお、各訪問看護ステーションにはもちろん相談窓口が設けられていて、さまざまな疑問点などに答えてもらえます。